

冒険投資家 BMWで世界を巡る

いまでは世界三大投資家の一人として知られるジム・ロジャースは1980年、共同で設立したクオンタム・ファンドを37歳で引退、オートバイで世界旅行を検討するが引退した年はアフガン侵攻（1978－89）、イラン大使館事件（1979－81）イラン・イラク戦争（1980－88）中国改革開放（1978－）など紛争や混乱が多く、世界旅行の環境ではなかった。

世界旅行でソ連と中国を外すことは世界の冠を外すことになってしまうが当時の共産圏は鉄のカーテンで入国困難であった。特にシベリアでは自由旅行が不許可であらゆる方面から許可を得ようと努力する。

この間、ビジネススクールの教授をやりながらガールフレンドをタンデムで中国やパキスタンなどオートバイで走り回る。1989年ソ連の許可がようやく下り準備に入る

大学で教鞭を執っていたときに知り合った20歳も若いタバサに世界旅行の同行を打診しますがタンデム好きではあるもののバイク免許すら持っていない。それでもその気になり教習所で免許を取り、BMWメンテナンス講習を受け、出発間際にはインストラクターを雇い徹底的に整備術を習得したとても優秀で健気な彼女です。

ジムはアイルランドのダンキンをヨーロッパ最西端的な場所として出発点・中継点に位置つけているなぜニューヨークからわざわざ遠いアイルランドへと思いましたがこれは日本で見る世界地図のイタズラでアメリカからアイルランドは大西洋の対岸なので納得です。（日本の地図だと最西端から最東端になっているので地球は丸いを忘れてる）旅行中も湾岸危機（1990）ソ連崩壊前夜（1991崩壊）の影響を受ける

ジム・ロジャース 投資家 1942年アラバマ州生まれ 保守・市場原理主義派である共和党支持

タバサ・エスタブルック 同行者 友人の娘 リベラル・政府の積極介入支持派の米国民民主党支持

① アイルランド ロンドン ウィーン 南回り（中央アジア経由） イスタンブール タシケント

北京 東京：中国・ハミではR69のピストンに穴が開くが職人に塞いでもらう 上海から貨物船を予約していたが天安門事件(1989)の余波で上海に入れず北京から航空機で成田に入ることとなった。

トルコ以来のBMWディーラー訪問、福田モーターズでメンテする。詳細は記載されていないが故障の多く部品調達が困難なR69USはR80モノサスにバトンを渡したようだ

② 東京・横浜 シベリア経由 ナホトカ イルクーツク モスクワ ワルシャワ ベルリン アイルランド：ハバロフスクから先は地図に道が無かったが本当になかった。タバサが度重なる転倒で音を上げ「飛行機で帰る！」3日間1,000キロをシベリア鉄道で過ごす。ベルリンで本格的に修理する2台とも保証期間で対応してもらう。

③ アイルランド アムステルダム アフリカ縦断 チュニス アルジェ キンシャサ ケープタウン ヨハネスブルク：ザールでは警官にパスポートを取り上げられ大金をタカられる

④ パース 豪州横断 ダーウィン シドニー ホバート NZ オークランド 南島

：エアーズロックに感銘を受ける。サハラでは80キロしか進めない日があったが、ここでは1,100キロ稼ぐ

⑤ ホーン岬 ブエノスアイレス サンチアゴ 南米北上 リマ ボゴタ

⑥ 中米 メキシコ ニューヨーク

：ジムはテネシー州で初めて事故にあい、手にひびが入りアゴも切る。1991年11月ニューヨーク着

⑦ 1992年7月ニューヨーク アラスカ アンカレッジ サンフランシスコ

8月にサンフランシスコ着 バイク2台はアラバマのミュージアム宛に梱包して発送

1990年3月アイルランド - 1992年8月サンフランシスコ 104,000 km（ギネス記録）

ジム語録 読後に印象に残ったエピソードなど

国境で札束をバサバサしている男（両替屋）がうろちょろしているところは公定レートと闇レートが乖離していて投資する環境にまだ無い国と判断できる

アメリカの教会チャリティーで集めた古着がアフリカに渡り、いつの間にか横流しされマーケットで販売されている。元はタダだから競合の相場を見ながら商売ができる。スモールビジネスで生地やミシンを買って衣服を作って売り出しても仕入れゼロのチャリティー品に勝てる訳も無く、結局、いつになっても産業は生まれえない。無節操な援助はすればするほど国は荒れ、贅沢品ばかりが上層部に集まることとなる

植民地時代を懐かしむわけではないが植民地時代は治安もよく、物価も安定して秩序だっていたが独立して上手くやっている国は少ない

国民が飢えないよう穀物価格を低く設定、なんと慈悲深い大統領でしょうか！180万トン収穫のトウモロコシは5年で3万トンまでに激減、収入にならない作物はだれも作らない。国家統制主義の典型的失敗例である。国家統制主義を採用している多くの国は泥沼にはまっている。

サハラ砂漠もシベリアもBMWのディーラーは無くとても苦労したようでタバサが選んだR69USはユーラシア横断後、日本でR80モノサスに交換されたようです。ジムはR100RTだ。1989年時点でなぜR69USを選んだのだろうか？すでに20年落ちで新車同様の中古車が手に入ったとは思えない。

旧タイプマニアとしては嬉しいがオートバイに疎い彼女は何を根拠にミュンヘナーに辿り着いたのか？

アイルランド2日目にタバサR69USにトラブル、タバサに不調原因が判らない。分解作業をしても原因探求ができない。たまたま通りかかったバイク屋に持ち込んだら5分で完調に、餅は餅屋です。

キャブのドレンキャップが走行中落ちて見付からない。転倒でテールライトが破損も代替品なし、ジムは同じモデルならスペア部品を共用できるので希望していたがどういう経緯かR69USをチョイススリーエムのメンテナンステープ（スコッチ・ダクトテープ）にはお世話になったようです。

ジムはこのツアーでとても重要な事実を知ることになる。BMWオートバイのディーラーは先進国の大都市にしかないがベンツのディーラーはアフリカだろうが南米の山奥でも部品もサービスも受けられる、ODA（政府開発援助：支援金）が国民に流れず、政治家や役人のボーナスに化けて高級車、ブランド品に変わっていたり、裏稼業のボスもベンツが好きでメカニックもいるのでワールドワイドである事実、1999年にベンツSUVで2年半、24万5千キロの世界旅行を3番目の奥さんになるタバサでないガールフレンドと敢行したが彼女がバイクは嫌と言ったこと以外にベンツを選んだ本当の理由です。

オートバイは雪氷に弱いので自然と行動期間、旅程に制約が掛かる。

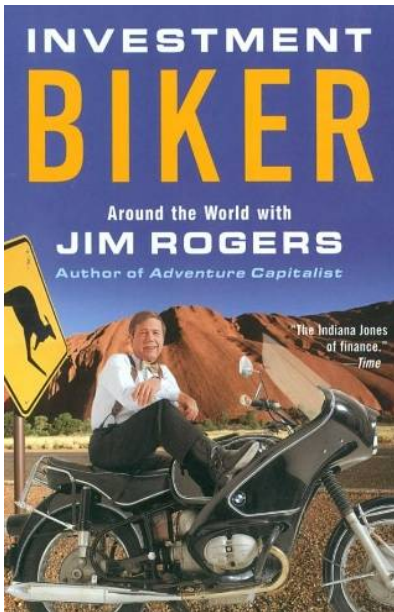
ジムは旅が終わるまでに40ヶ国語で「ビール」と言えるようになったそう。

ジムは中国推しで実際2007年からシンガポールに移住して娘に中国語を習わしている。いわく、中国人コックの飯は上手い、執事として優秀だとか、文句を言わずよく働く労働者だとか何か上から目線で評価しています。日本に対してはととてもとても辛口です。投資家なので「奇貨居くべし」的発想なのでしょう。

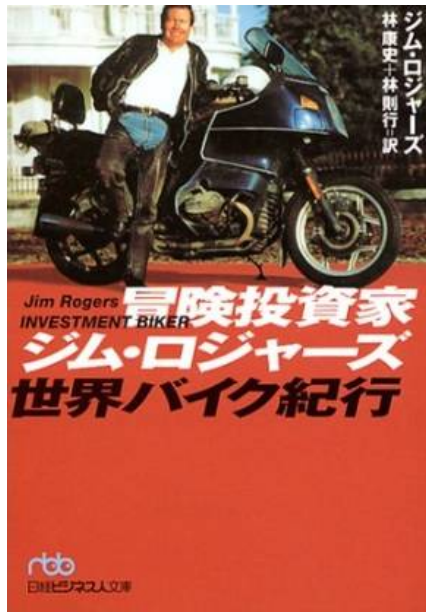
文庫が今でも購入できるので興味ある方は是非読んでみて下さい。

世界各国の歴史、地理、経済、投資に適したマーケットかどうか、どうして経済が上手くいかないのかどうすれば豊かな国になれるのか？30年も前のことですがとても読み易く、刺激的で示唆に富む内容です。ジムの予想は当たったのか外れたのか、30年後の答え合わせ的楽しみもあります。

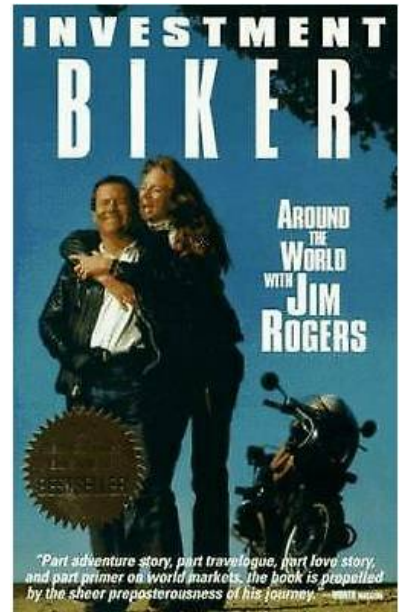
CRIMECA



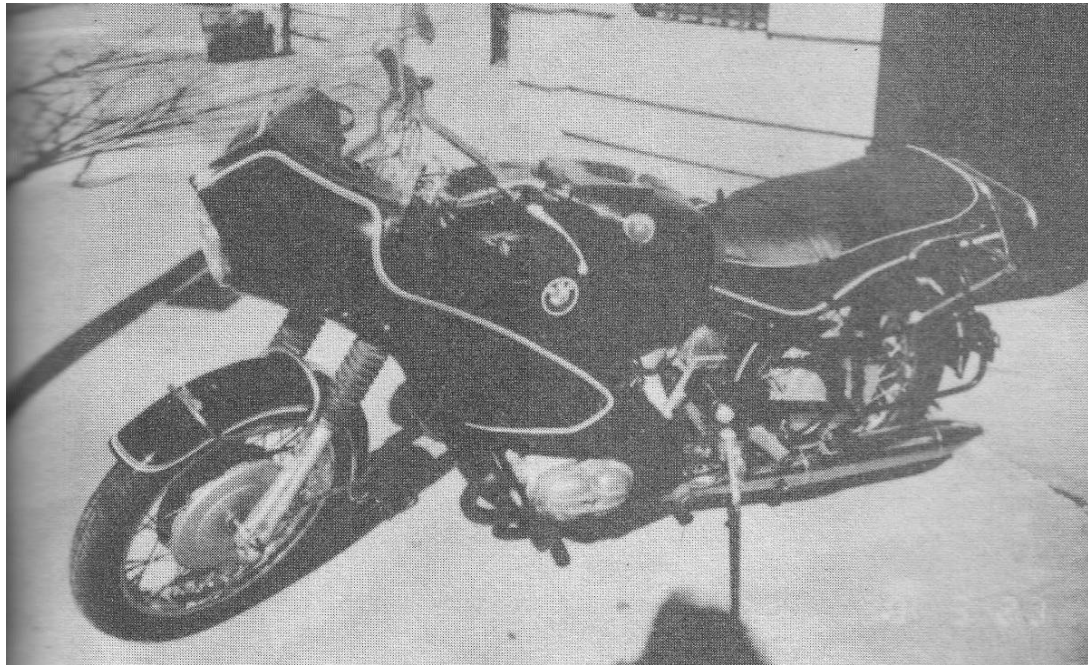
タバサのチョイス20年落ちのR69US



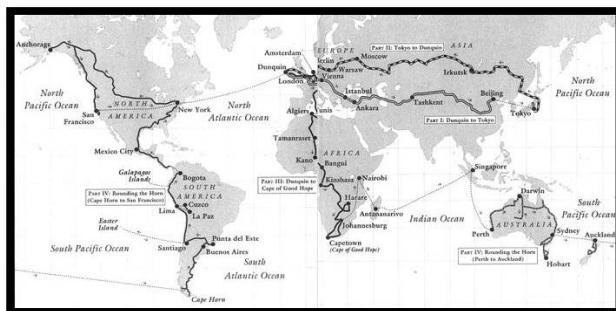
ジムはR100RTモノサス



ジムよりでかい 背景にR80



アイルランド・ダンキン(出発地)にて AVONカウル、ハインリッヒ・タンク、定番ブラウン・スタンド付き



アラウンド ザ ワールド



前途洋洋 意気軒昂



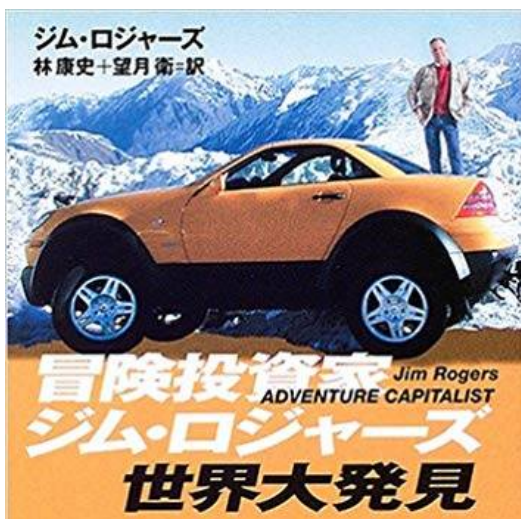
中央アジア経由で走破 北京まで49km ナホトカ行きの船に乗り遅れるとソ連で冬將軍の餌食の恐れ
 タバサのテールライトが四角いのはユーゴスラビアで転倒した際、部品が無く古いホンダ用を付けたため



サハラでは砂の餌食に R80



長身のブロンド娘である



1999年特注ベンツで2年半116カ国24万キロの冒険に



ギネス・ホルダーの2台はアラバマのミュージアムに寄贈